

平成30年度12月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成30年12月3日（月）午前11時00分～午前11時40分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ 9社

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. エンジン01 in 釧路について

- 11月2日（金）から4日（日）の日程で行われた「エンジン01 in 釧路」については、皆様のお力添えをいただきまして、大盛況にて無事に終了したところであり、まずもって感謝を申し上げます。
- そして、準備や当日運営に御協力いただいた地元若手経済界をはじめ、公立大生の皆様や各方面の皆様に対しましても、心から感謝を申し上げます。
- 3日間とも好天に恵まれるなか、コーチャンフォー釧路文化ホールでのオープニングとクロージングあわせて約4,100人、公立大での講座は約9,100人の方にお越しいただき、夜楽は約800人の方のご参加をいただき、合計では延べ14,000人以上の方々の来場がありました。
- 来場者につきましては、市内で約79%、市以外の道内で約16%、道外で約5%となっており、釧路市内のほか、全道、全国から多くの方が釧路市を訪れました。
- 講師の方々からは、「釧路の方々の熱心さに感激した」「地元の盛り上がりがすばらしかった」「スタッフの皆さんに素晴らしいおもてなしをしていただいた」などのお褒めの言葉をいただいております。
- 今回の学びと交流の中から新しい釧路が生み出されることに期待するとともに、今回培った財産を活かし、釧路の文化や芸術の振興はもとより、地域活性化にもつなげてまいりたいと考えております。

2. お正月U I Jターン 就職個別相談会の開催について

- 来年1月2日（水）に「お正月U I Jターン 就職個別相談会」を行います。会場は錦町5丁目の三ツ輪ビル5階にあります「北海道中小企業家同友会くしろ事務所」において開催いたします。
- この事業は、市内中小企業へのU I Jターンの促進を目的として、平成27年度より実施しているもので、今年度は夏のお盆時期に引き続き2回目の開催となります。前回、夏の就職個別相談会では、8名の方にご参加いただき、現時点で2名の方の市内就職が決定しており、今後さらに増えていく見通しです。
- 参加は無料で、事前申込が必要です。相談会では、市内約400社の情報と就職希望のマッチングを行います。

- また、1月13日(日)に開催の「くしろ20歳のつどい」の釧路会場において、UIJターンのPR活動を実施いたします。市内企業とともに屋外にテントを設置し、UIJターンの相談や企業情報等を提供する予定ですので、大学進学等で釧路を離れているお子様がいらっしゃる方は20歳のつどいに参加するときに、このブースにお立ち寄りいただくようお願いいただければと思います。
- 市といたしましては、ふるさとに戻って就職したいという希望がかなえられるよう、現在市外にお住まいの方が市内企業に就職するUIJターンの取り組みを一層進めてまいりたいと考えております。

2. その他(1項目)

1. ベトナム訪問について

- 12月16日(日)から19日(水)の日程で、ベトナム石炭鉱物産業グループ「ビナコミン」とベトナム文化スポーツ観光省並びにベトナムパラリンピック委員会を訪問します。
- 釧路市では釧路コールマイン(KCM)の研修事業を始めとした、ベトナムとの交流を進めており、この度、ベトナム石炭鉱物産業グループ「ビナコミン」総裁より、釧路コールマイン株式会社菊地社長と釧路市に対し、招聘状が届いたことから、あらためて協力関係を強固とするため表敬訪問いたします。
- また、ベトナムを相手国とする「2020東京オリンピック・パラリンピック」のホストタウンに登録されており、この度、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局による、「オリパラ基本推進調査事業」の承認を受けたことから、ベトナム文化スポーツ観光省及びベトナムパラリンピック委員会を訪問し、パラ・パワーリフティング選手の招聘などを行ってまいります。
- 今後もベトナムとの良好な関係を継続していくため、経済や文化、人的交流など、さまざまな形で進めてまいりたいと思います。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ ビナコミンの表敬訪問についてももう少し詳しく聞かせてください。また、前回ビナコミンに訪れたのはいつでしょうか。

(市長)

- ・ KCMの研修事業は平成14年から継続していただいて、先だっても国に要請を行ってまいりましたが、平成31年度についても概算要求に盛り込んでいただきながら進めているところです。KCMでは自立的な経営体制に持っていこうと、火力発電所の建設について、国からも助言をいただきながら進めているところです。研修事業はスタート時から我が国に対する石炭の安定的な供給体制を作っていくということが大きな目的ということですので、ベトナム、中国、インドネシア、そして新たにコロンビアと拡大しているものです。ベトナム石炭鉱物産業グ

ループ「ビナコミン」からは、この研修事業に高い評価をいただいているところですが、KCMの研修事業にとどまらず交流を続けて行きたいという話をいただいております。この友好を深めていくため、今回、ビナコミンへの表敬を行うものです。

同行者は私とKCMの菊地社長、あとは市役所の担当者2名です。

前回ビナコミンに訪れたのは昨年8月で、高橋北海道知事と一緒にビナコミンを訪問し、チュアン会長やハイ総裁にもお会いしてきました。

(質問)

- ・ 今回の訪問では、研修事業に関する協定等を結ぶとか、新たな連携に向けて今までと違う枠組みの話などはあるのですか。

(市長)

- ・ 研修事業は、海外産炭国に日本の炭鉱技術を移転することによって、海外産炭国からの石炭の供給を将来にわたって安定的に確保することを目的とした、国の事業に基づくものです。

釧路市において研修事業は、KCMのみならず、地域の中で研修生が快適に研修できるようにと、商店街や町内会なども含め市を挙げてこの研修事業をより良いものにしていく取組をしてきました。そういった街の取り組みと併せて、KCMでの生産性・安全性の向上などの研修は、ビナコミンにおいては無くてはならない事業というものになりました。

ビナコミンからは、今まで1,600人を超える研修生が釧路に来ており、ビナコミンの会長や総裁も来釧しています。こういったことを続けていくことによって、この事業が日本における石炭の安定供給に、大きく寄与できる事業になってきていると考えています。

すでに研修事業に関する協定が結ばれていることから、新たに協定などを締結するという話にはなっておりませんが、ビナコミンとKCMが今後も良い関係を続けていけるよう取り組んでいきたいと考えています。

(質問)

- ・ ベトナムのホストタウンにつきまして、今回のオリパラ基本推進調査事業の承認と、誘致活動との関連性はどのようになっていますか。

(市長)

- ・ 釧路市オリンピック・パラリンピック合宿誘致スーパーバイザーとして、この街の名誉大使の方またアスリートの方々のご協力をいただきながら、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての事前合宿の誘致などの取り組みを進めてきた中、ベトナムといろいろなことを行っていけるということで、ホストタウンの登録をいただきました。

そして、ベトナムの事前合宿などを進めていこうと、昨年の夏にベトナムのオリンピック・パラリンピック委員会やベトナム文化スポーツ観光省にもご挨拶に行き、今年1月には教育長もあらためて訪問しお願いをしてきています。そこではパラリンピックの選手の方々を釧路で合宿ができればということで話を進めてきました。2020年と言わず、その前にも事前合宿を実施していただきたいと、さまざまなアプローチを行ってきたところ、この度、内閣官房のオリパラ基本推進調査事業が承認されたものです。

(質問)

- ・ パラリンピックのパワーリフティングの他に誘致する種目はありますか。

(市長)

- ・ ベトナムはパラリンピックのパワーリフティングと射撃が強いと聞いています。北海道ではベトナムのホストタウンは釧路市ですが、全国では他にもあり、特に長崎県が県を挙げて取り組んでいます。市としては射撃については施設等の関係で難しいところがありますので、パワーリフティングをとということで進めています。また、市内施設での合宿が可能な陸上や水泳などを挙げています。

(スポーツ課長)

- ・ 今年9月に北九州で行われたパラ・パワーリフティングアジア・オセアニア大会の時にベトナム選手団が来ており、担当者が直接出向いてベトナムの障がい者スポーツの代表の方と交渉をしてきました。その際、水泳や陸上の選手につきましても、来てほしいと話をしており、今回市長が訪問した際にあらためて話をさせていただく考えです。

(質問)

- ・ 2025年大阪万博の開催が決まりました。8月に関西と釧路の路線が就航したことで距離が縮まった感じがしますが、どのように受け止めていますか。

(市長)

- ・ 2020東京オリンピック・パラリンピックが終わった後に、継続して世界的なイベントが我が国で行われるのは、追い風になるということで大変にうれしく思っています。

P e a c h (ピーチ) の釧路－関西国際空港便が就航して、非常に多くの方々に利用していただいています。私どもとしましては就航後の3年間でしっかりと路線を定着させて、さらに充実させていこうと取り組んでいきたいと思っています。大阪と自然豊かな釧路・ひがし北海道全体といった連携もとれると思いますので、しっかり進めていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 釧路の観光関係者に聞くと、関西方面からの誘客という観点が多いのですが、逆にも、逆に釧路から関西方面へのPR等を強化していく考えはありますか。

(市長)

- ・ 関西方面には、今までも季節運航便の伊丹線を中心にPRを行ってまいりましたが、今年から関西空港についても行っています。

また、関西の方々にもPRするという観点もあるのですが、関西方面ではインバウンド(訪日外国人旅行者)の方が多くということですので、その方たちにもひがし北海道・釧路の情報を発信していくことも必要と考えています。

路線の繋がっているところだけではなく、そこを利用するの方々という観点でPRを強化していこうと観光担当者と打ち合わせをしています。

(質問)

- ・ JR北海道が単独では維持困難とする赤字8区間の支援について、国、道、地方自治体の枠組みの中で地方財政措置を模索されているとされてきましたが、国では予算編成の中で地方財政措置を見送る方針を固めたと報道されています。このことについて市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ JR北海道の地方自治体に対する財政支援について、ニュース等に出ているものの、まだ正式には話を聞いていません。

国・道・地方自治体の枠組みということですが、報道内容は、基本的に道と地方自治体がそれぞれどれだけ負担していくのかということが決まらな

国が支援のしようがないというような見方にも取れるわけでございます。

国の方向性については、北海道の関係者会議である6者協議などで正式に説明されるものと考えており、しっかりと考え方を伺っていきたい。

(質問)

- ・ 統合型リゾート（IR）について、北海道知事から明確な方針が示されているわけではないのですが、全国でも3～4カ所なので、北海道も選ばれるかどうか分からない状況です。北海道の中でも苫小牧を優先していこうという方向性が徐々にでてくることが考えられます。釧路市は苫小牧市との連携という方針を出していますけども、市は引き続き誘致をしていくのでしょうか。

(市長)

- ・ 自然を大切に作るヨーロッパ型といいますかローカル型のIRを阿寒湖畔にという考えで、これまでお話をしてきました。阿寒湖畔はひがし北海道の中心に位置するということで、周辺の空港を合わせた利活用が可能であり、また、しっかりとアイヌ文化を発信するというので進めてきました。

しかし、国の制度設計ではローカル型ではないものになっており、私たちがこれまで考えてきたものとは違うものになっていますが、ローカル型というのは先々の制度としての観点も残っていますので、IRを誘致する考えに変わりはないものです。現在の制度設計がどちらかと言うと大資本型という形になっており、市で考える阿寒湖畔でのIRというものはマッチングしないものです。

ただ、北海道全体としてIRの誘致は必要であると考えています。北海道内にIRの機能を持ち、北海道の中で1泊でも2泊でも、インバウンドを含めながら滞在していただいて、全道にその経済波及効果をとという考え方になるものだと思います。「北海道にIRの機能を持ってくる」そして「北海道らしい、IRがスタートする」ことが重要なことだろうと思っています。私どもは、次のことを踏まえながら、今まで同様のスタイルで行っていきたいと思っています。